

### 第3回 天草市学校規模適正化審議会会議録

1 期 日	平成20年11月5日(水)午後2時1分～午後4時21分
2 会 場	天草市庁舎別館会議室A
3 出席の状況	<p>(1)審議会委員 19人 石橋委員、土佐委員、龍石委員、原田委員、森委員、牧田委員、高辻委員、瀬川委員、松村委員、益崎委員、益田委員、梅田委員、大久保委員、永野委員、村端委員、杉山委員、金子委員、金澤委員、角中委員</p> <p>(2)欠席者 6人 藤川委員、前田委員、本多委員、尾田委員、山田委員、井上委員</p> <p>(3)出席した事務局職員 7人 岡部教育長、嶺教育部長、川崎教育指導課長、坂本学校教育課長、武部同課課長補佐、山名同課教育企画係長、小川同課主任</p>
4 傍聴者	なし
5 議事の内容	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 前回会議の会議録の承認について</p> <p>4 議 事</p> <p>(1)前回会議で提供要望のあった資料の説明</p> <p>(2)学校規模適正化の基本的な考え方について</p> <p>(3)次回会議について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p>
6 配布資料	<p>(1)次第</p> <p>(2)天草市と同規模市の学校数の状況 資料1</p> <p>(2)スクールバスの運行現況(平成20年度) 資料2</p> <p>(3)山鹿市立小・中学校規模適正化について(提言) 資料3</p> <p>(4)牛深市公立学校規模適正化に関する答申書 資料4</p> <p>(5)上天草市公立学校規模適正化について(答申) 資料5</p> <p>(6)薩摩仙台市の幼稚園・小中学校の状況(平成20年度) 資料6</p>
7 議事録作成者	学校教育課教育企画係 山名 直
8 記録の方法	発言者の要点記録、録音機

## 会議記録

[司会(学校教育課長)] 天草町の山田委員、栖本町の前田委員、御所浦町の尾田委員の3委員から欠席の届けが、新和町の本多委員は少し遅れるとの連絡があっている。藤川委員と井上委員が見えていないが、過半数の出席であることを報告する。

[会長] みなさまご苦労さまでございます。寒くなったが、11月1日から3日まで天草を見て廻った。天主堂など天草には独特の歴史がありいい面を生かしていきたい。  
それでは、「前回の会議録の承認について」

[事務局] 今回の会議開催の案内の際に前回会議録を送ったが、本日の資料で1ページのみを付けている。欠席者は益田委員であったが、間違って益崎委員としていた。その訂正をお願いする。申し出はこれだけであるが、何かあればこの場を出してほしい。

[議長] いいでしょうか。

[委員] 8ページであるが、議長発言のなかで、「いままで歩いて10分であったのが(統合したことで)バスに乗らなければならなくなったという不満だけはないようにしないとイケない。」とあるが、この趣旨が分からない。

[議長] 私の発言ですかね。統廃合すると、どうしても今までより遠いところに学校ができる可能性がある。スクールバスの運行については今から議論するが、今まで歩いて10分しかかからなかったが、スクールバスで20分かかることになるという不満はそれぞれ理解いただきたいという趣旨である。

[委員] 文句は言うなどのことか。

[議長] スクールバスで30分かかるより歩いて5分で行けるのがいいが、そうできない場合がある。スクールバスで1時間かかるのは問題かもしれないが、20分かかることになるという場合もあることを了解いただき議論しようということだ。ほかにないか。

[委員] 前回欠席していたが、議事録を読んで共通認識することは何かと考えたとき、平成26年度の児童生徒数をベースとすること、複式学級を解消することの2つでいいか。

[議長] それは皆さんから出たことであった。ほかに話したのは、子どもが少なくなれば仕方ないという消極的な賛成だけでなく、この機会に苦しい思いをし犠牲を払うので、夢というか、新しいやり方を併せて考えようと提案した。単なる統廃合でなく天草の特色を出すようなもの、あるいは充実させていくという3つについては確認いただいたと思う。いかがですか。

旧市町村単位での基準で考えよう、少ない町と同じ基準で考えていいのか、柱と言うべきかは別として、基準がいるのではと申し上げた。なければ前回みなさんから要望のあったものを事務局から説明しよう。

[事務局] 資料の1から3まではお送りしたが、本日配った資料4・5・6までについても説明する。

資料1の「天草市と同規模市の学校数の状況」については、前回会議において、委員から「天草市と同規模の市で、小規模校や適正規模校は何校くらいあるのか、調べてみる価値はあるのでは」と要望のあったもの。本市の人口や面積が類似する24市を調査した。

この中で、一番下の欄の「鹿児島県薩摩川内市」をご覧くださいと、面積がほとんど同じ、合併した市町村数もほぼ同じ。地形的にも、天草と同様に離島である甑島を抱えているが、原発があり人口や財政的には天草を上廻っている市である。

次に学校数を見ていただくと、ほとんど本市と同じとなっている。小学校は46校、中学校も16校。学校規模の状況を見ると、小学校の半数以上の26校に複式学級があり、中学校においても1校が複式となっている。

この状況については、本日配付した資料6「薩摩川内市の幼稚園・小中学校の状況」にまとめたのでご覧ください。

次に資料2も、前回会議において委員から要望のあったもので「スクールバスの運行現況」を示している。

表について説明すると、対象校、バスの台数、乗車人員、経費を調べた。なお、日本渡市と旧五和町においては、スクールバスは運行していない。天草町の「二浦小と牛深中」は、旧大江小学校向辺田分校に関するもの。バス25台うち牛深3台と河浦2台は市が所有している。

資料3「山鹿市立小・中学校規模適正化について」の答申の全文を付けている。

前回の会議で、山鹿市の審議会での基本方針に関する新聞記事のコピーを配付したが、「もっと詳しく知らせてほしい」との要望があったので、その答申の全文である。

次に、天草管内でも学校統合がなされているので、平成15年2月に答申があった旧牛深市の答申を資料4として、昨年7月の上天草市の答申を資料5として配付した。

[議長] 今の説明についての質問や意見を。

[委員] 資料6の薩摩川内市には幼稚園が多いが、休園とあるのは将来は廃止するのか。

[事務局] 現在の状況であり、募集しても集まらないから休園になっていると思う。将来は廃止になるのかと思う。

[議長] 薩摩川内市の現状は幼稚園・小中学校の数と児童生徒数が、天草市に似ているとのことである。適正化がなされた結果がこのようになったのか。薩摩川内も同じこと(適正化)を考えているのか。

[事務局] 学校規模適正化に関する情報は、ホームページでは見つけることはできなかった。しかし、今後小中一貫教育を目指すとしている。一部の学校では以前に統合した記録もあった。具体的に適正化計画があるようではない。

[委員] 資料1の長野県の飯田市の状況であるが、市町合併はなかったのか。小学校が15校、中学校が10校であるが。

[事務局] 飯田市は市町村合併はなかったと思う。

[議長] 資料2のスクールバスであるが、一番遠い子どもで何分くらいかかるのか。30分かか

るのか、1時間かかるところはいいと思わない。地元の方がおられるので分かると思うが。

[委員] 牛深中であるが、さっきあった向辺田地区は、二浦で乗り換えるのもっと時間がかかると思う。小さいバスに乗り換えている。

[委員] 新和小は中石地区に行って宮南地区にも行き大多尾を通る。40～50分かかっているのでは。

[事務局] 新和地区には2路線ある。

[委員] 大宮地方が1台と宮南方面が1台で、宮南の方が遠い。

[議長] 運行距離を考えると、広範囲になる。運行路線は考えていけないといけない。私は20～30分が適当と思っている。具体的な話の時に考えよう。

[委員] 山鹿市でも具体的な名前が挙がっているが、最後のまとめの文章は「検討する」で終わっている。しかし、牛深や上天草では「統合する」と断定的な言い方である。天草市でも牛深のような住民アンケートが必要ではないかと思う。山鹿の複式学級の解消と耐震化への対応は当然であるが、旧市町を越えて中学校の統合も考えなければならない。学校間の近いところ、町境に隣接するところはこれからも寂れてくる。上天草でも将来的にはこのよう検討をするとしている。統合してこちらが良かったことがないようにするためにも、今の段階で住民にどうするのがいいのかのアンケートを採るべきではと思う。

[議長] 適正化に賛成・反対ではなく、どこと一緒になるかというアンケートをとるとのことか。そういうことが想定される地域があるのか。

[委員] 私の大多尾小地区では、新和小行きスクールバスが通っており、現在48人であり地域住民も新和小と統合するだろうと思っているので、大多尾小はスムーズにいくと思う。隣の河浦町の宮野河内小では、かなり距離がある河浦町の一野田小との統合となるだろうが、距離等からして新和小に統合した方がいい場合もあるのではと思う。

[議長] 旧市町の端同士の学校同士が統合するのを想定されているようであるが、申し上げたのは、小さい町で1小1中の場合に、今後も子どもが少なくなるので(単独では)ダメだから、旧市町境を越えたより近い学校と統合がいいところは、境を越えた統合も考えよう。しかし、旧市町に1校もなくなるのはさびしいのではと思う。将来はあると思うが少なくとも今回は、26年度を前提に考えたい。通学距離や便利さがあるので、この場合にどう見ても(市町境を越えて)統合した方がいいということであれば答申を書くことになると思う。答申で、どうしてこんな遠くに行かなければならないかという意見ができれば考える必要はある。

牛深はこの答申が出ている以上、割と新しいのでこれを前提に考えていくのか。

[事務局] 資料3ページのAの組み合わせでも牛深小と茂串小は統合したが、天附小は統合していない、Bでも魚貫小と池田小は統合しているが、二浦小は統合していない。AもBも2つずつの小学校があり、答申通りにはしていない。

[議長] 遅れているのか。

[事務局] その後に市町合併があり、この経過も踏まえて審議会で検討いただきたい。

[議長] この答申は尊重しないといけないと思う。

上天草でも複式学級の解消として組み合わせや具体的な学校名、時期を出してある。できればこのようなかたちが望ましいと思うが、その前に基本的な考え方について検討したい。

[委員] この前牛深地区の教育懇談会があったが、統合については厳しい意見があった。(厳しい意見を述べた)その人は学校がなくなった地区の人で、寂しいという思いがありあの質問になったと思う。

山鹿市の9ページの真ん中のなかで「学校に対する愛着や学校の存続を願う気持ちから、心情的に再編への理解が進まず、反対の声があがるようなこともあるかも知れない。」まさしく、この気持ちではと思う。でも「しかし、学校の教育機能が低下すれば、次世代に大きな影響を及ぼし、さらに深刻な事態になることへの理解を得る必要がある」と言う部分を住民に理解が得られるよう分かりやすく説明すべきと思う。

[委員] 今の意見に賛成であるが、統廃合するとなくなる学校の住民はさびしいのはどこも同じ。今の子供の未来のことを考えるという視点にたたないといけない、心情的になってしまう。

[議長] この問題には諸手を挙げて大賛成の人はいない、仕方ないとの思いになる。しかし、いい面もあることを示し、単なる統廃合にはしないということで住民の理解を得る必要がある。子供が減ってさびしいとのことにどういう対応をするのかということをも提案もして、実現できるかは別であるが、住民の方の理解を得る必要があると思う。

上天草の平成28年というのは、こちらは26年度を見通してということにしているが、28年度ということになると状況は大きく変わると思うが。

[事務局] 住民基本台帳などから25年度までは分かる、それをもとに28年度の姿を推測しようとなっている。今年4月には江後分校は中南小学校に統合されて廃止となった。22年4月の統合について説明会を行っていることを聞いている。

[議長] あんまり先になると大きく変わっているので実態とかけ離れてしまうので、ある程度の時期でいいと思う。

[事務局] 湯島は28年4月となっているが、ここは離島であり通学手段の確保が解決してからということで、遅くなっているとのことである。

[委員] 宮地岳小は22人の児童しかいない。住民に学校統合について聞くと、もうこれだけ子供が少なくなると学校がなくなっても仕方ないという意見の層がある。元公務員、元郵便局や区長等の声を聞くと、学校がなくなることは寂しいと話が綿々と言う。小学生に聞くと、子供はイタリアのセリエAに入りたいという夢を持っている。そういう夢を地域の大人が摘んでしまっているのかとの意見も聞く。問題は中間層の人である。それは夢ではないかという。

統合した地域の方は、マイナス面だけを強調し宣伝してしまう。プラスである夢を語ることは言わない。地域の(年代等の)層によって意見が違っている。地域の理解を得るにも壁があるようだ。教育効果を上げ、子どもに夢を与えてやりたいと思う。

ところで、倉岳は3つの小学校が統合したが(統合によって1小学校となった)、いいのか。

[議長] 議論には上がるが、(統合)したとの意見も出されるのではと思う。

[委員] 「倉岳栖本支部」としていろいろな教育関係の機関がある。昔から「倉岳栖本」は1つの

扱いになっている。旧市町村だけにこだわっていいのかなと思う。

[委員] (倉岳小では)現実的にはいまやっと落ち着いてきたところであり、子どもは伸びようとする時間が必要。4～5年間は今のような状態を続ける必要があると思う。ここ2・3年が倉岳小は勝負である。

[議長] 50年経てば旧市町の境はなくなるだろうが、26年度を目途に検討したい。旧市町に1小学校1中学校を残すことで議論しようとしている。将来的にはそんなことを言っていられないのは、みなさんご承知のとおりと思う。

[委員] 山鹿市の答申を読んだ。総合計画や教育ビジョンを見たがこれを実現するために、今の学校規模、学級数や人数では支障が出てきている、それがそもそもであると思う。みんなの意識がその目標に近づくためには、今の状況では無理であるということをおもひに理解させるべきである。下地づくりが必要である。

情情的には、学校がなくなると寂しい、苦しいと言う声はあるが、子供のためにやむを得ない面もある。事務局にお願いしたいのは、市としての構想、教育的な構想を示してもらい、そのために適正化をやっているのだということ、そのために話をしているということが広がっていけばと思う。

[事務局] 市長のマニフェストにも適正化について述べている。また総合計画でも「地域を担う人づくり」という項目の中でも適正化の必要性に触れている。これらをもとに、審議会を立ち上げて適正化を図ろうとしているところである。次回に資料を提供したい。

[議長] 天草市の教育のキャッチフレーズはないのか。例えば、このような子どもをつくるとか。

[事務局] 教育目標を掲げている。目標の実現のため施策を展開している。

[議長] 教育目標に沿って、これを実現するために行っていることで、人数が少なくなったから統合するということでは説得できないだろうとの意見である。教育環境を整備するということを説明しなければならない。次回に出してほしい。山鹿、牛深、上天草の答申を見てほしい。イメージはわかったと思う。どこか天草市らしいもの、例えば 名前は規模適正化でなく、教育環境の整備とますますの教育向上のためとか、もっと積極的なものを書けとかをぜひ検討してほしい。

今日ぜひお願いしたいのは、基本的な考え方について検討してほしい。

[事務局] 前回18ページという資料を持って来ていないか。

[議長] これはたたき台であるので、表現を含めて検討してほしい。

1番の「将来の児童生徒数の増減の動向を考慮し計画的に実施する。」これは当然であるが、例えば「この審議会は50年後100年度は考えていないので、平成26年度を目途に」を入れるとか、なにか意見は。

[委員] 1番というのは、並列の表現であるなら、基本的な考え方が1番目になるのでは。児童数等の数ではなく、何のためにするのか、こどもの教育環境を良くするために適正化するというものがくるのでは。

[議長] 基本的な考えの1番初めにくるのは、こどもの教育環境を整備するためにやることであ

り、これが1番目にくると思う。

このままでは子供にとって決していい環境ではないのだと言うことにしたいが問題ないか。表現は任せてほしい。この機会に天草市の教育の向上を図ることが2番目。3番目は、適正化のための基準としていいか。これは統廃合する場合の基準である。3段階的な表現がいいのではと思うが、これでいいか。

[委員] 天草地域でしかできない教育、教育特区的なものではないのか。

[議長] 小・中学校の枠を越える時は特区であろうが、「総合的な学習の時間」等で取り組むということであれば(特区に)ならないと思う。

[事務局] いま富合町では小中一貫教育をやっている。ここは小学校1校中学校1校で、教育特区が認められている。通常は小学校6年中学校3年であるが、これを4年・3年・2年で区切り、前期・中期・後期にわけている。前期は、学級担任制で担任が教える、富合町では中期から教科担任制を一部導入している。通常でも専科教員が配置されるが、富合ではそのような小中一貫教育である。阿蘇の産山村でも、同じ様なやり方である。村の特性、地域性、文化を学ぼうとしている。総合的な学習の時間を使い、天草の文化歴史を学ぼうとしてすることは、通常の総合的な学習の時間にできると思う。

[議長] 特区を取って、小学校中学校の体制そのものを変えていくということであれば話は別であるが。その点は2番目のところで議論しよう。

1番目の環境の整備、2番目にこの機会に天草の教育を上げていく、3番目に学校規模適正化する場合の基本的な考え方で位置づけることとする。2番目はあとで議論することしよう。3番目の考え方のその1で将来の見通しを持って対応するとし、表現の仕方は別であるがいいか。

2番目の「教育の効果を考慮し、小規模校、特に複式学級の解消を図る。なお、小規模校として存置し充実する方が好ましい場合があることに留意する。」これは地域的なものを考えてのことと思う。どこと組み合わせるかは別として、複式学級の解消については一致いただいていると思うからこれでいいですね。

3番は「学校は地域の文化的中心であり、精神的なよりどころであるという「学校の持つ地域的な意義」等も考慮する。」3番目は何を言おうとしているのか。なくなったら寂しいから考慮せよとのことの意味か。1、2、4に比べて3は少し異質のようだ。基準とは少し言いにくい。文化の中心、心の拠り所をなくすと寂しいから考慮するというのは、あとの跡地の利用等の残された課題で書くのがいい。ここは基準であるから。

4番目「小学校の学校区は現行の中学校区域内を基本とするが、学校や地域の実情に応じ、中学校区域を越えた統合も検討する。」これはさっき議論が出たが、市町村の境界の近いところとの統合の場合はあってもいいのではとのことか。一応、町に小学校1校、中学校1校と考えているが、隣町との統合もあり得るとのことか。

[委員] 中学校区を越えた……。

[議長] この表現だと、むしろ旧市町村を範囲として考えていってそれ以外でも統合があり得る

とのことか。

[事務局] 旧市町を基本にする。

[議長] 現行の中学校区内とすると小さい中学校もあるのでは。4番目が言おうとしていることはそういうこと。表現は考えよう。

5番目については「地理的条件や児童生徒の通学の安全、心身に与える影響等も考慮するとともに遠距離通学になる場合は、スクールバスの運行により通学手段を確保する。」統合により遠距離になるとスクールバスを走らせることになる。書き方としては、通学手段としてスクールバスを確保して、あまり長い距離にならない とかの条件的な書き方がいいのかも。

[委員] 距離が何キロとか。

[委員] 通学手段はスクールバスだけではないのではと思う。他の交通手段もあるので、スクールバスだけとは決められない。

[委員] 路線バスの活用の方法はないのか。

[事務局] 路線バスを利用しているところもある。本渡と五和はスクールバスを利用していない。路線バスがあればそれを利用する方がいい面もある。しかし、これまでの統合においては、路線バスの便が少ないのでスクールバスとなってきた経過がある。

[議長] 児童生徒の通学の手段として、スクールバスその他の交通機関を確保するとし、本文のなかでバスの運行のあり方等を考えたい。

6番目の「施設整備については、既存の学校施設・設備を最大限活用することを基本とする。」これについてはどうか。

[委員] 平成26年度といえば、こう(既存施設の活用)しかできない、新校舎は間に合わない。

[議長] 書いても書かなくてもこうしかできない。この機会(学校統合)に新しいものを造るところもあるが、天草市は難しいだろう。そうしなければならない理由があれば別であるが。

[委員] 耐震診断が21年度に終わっても統合に2～3年かかるので、26年度は少しの間しかない。少しでも延ばしたらと思うが。学校統合はある程度の長期的な見通しをもってしなければ、あっちと統合し(次に)こっち(と統合する)というわけにはいかない。

[議長] この機会に施設設備の充実を図ることはできないのか、建物を建てるだけではない。

[委員] 学校施設は昭和56年度以前のもので耐震補強しなければいけない。その点を含めて考える必要がある、財政を含めて。

[事務局] 平成26年度という統合の目標があるが耐震化が難しいので目標を長めにということか。前回会議でも耐震化については話した。平成18年度に行った優先度調査をもとに、耐震診断が必要な建物について本年度と来年度で調査することとしている。調査を終わり、計画をつくって27年度までに耐震補強、例えば筋交いを入れるとかを終えてしまうこととしている。

[議長] 適正化を機会に、耐震化を含めて施設整備の充実を図るというような表現がいいのでは。将来のあり方であり、ここの基準ではないが、表現を考えよう。

[委員] 統合し学校として利用する学校は耐震化するが、使わない学校は耐震化せずに地域



の要望がなければ何もしないで放っておくということか。

[委員] 今から統廃合が進むと、廃校施設を有効的に利用することを考える必要がある。苓北町の木場小の跡を地域が宿泊所として有効的に使われている。

[委員] 統合した学校の利用方法については、住民感情からすると配慮がほしいということになるのか。

[議長] 基本的な考え方として9番目がある。廃止した学校跡地の利用についてを、基本的な考え方に入れておいた方がいいだろう。これは特効薬はなかなかないが。

6番目は、さっき言ったようにし、表現は考えたい。跡地の利用というか、廃校した住民の気持ちに伝えられるように考えたい。しかし、どのように有効活用するのかはなかなか難しい。合宿所としても成功している例は少ない、一部屋だけを高齢者のサロンなど利用されているところかもしれない。これは基本的な考え方の最後に入れるようにする。

7番の幼稚園のこともいれるのか。もしするならば、山鹿や上天草では幼稚園のことは入っているのか。

[事務局] 入っていない、諮問には入っている。

[議長] 小学校と一緒に議論するとすれば幼稚園は違うと言う。確かに違う。保育園とも違うという。幼稚園関係者の方はいないのか。

[委員] 本渡の下浦幼稚園にいたが閉園になり、瀬戸幼稚園と統合した。下浦から当時4名の子どもが移った。保護者の中で問題になったのは交通手段、送り迎えなので距離もあり交通費もかかる。幼稚園は親子で手をつないでいける距離にあるところがいい。また、地域の老人会との交流がとても盛んで、よく足を運んで子供達と接していただいた。地域から幼稚園がなくなることを残念がっておられた。

3番の「学校は地域の文化的中心であり、精神のよりどころであるという学校の持つ地域的な意義を考慮する」という点では幼稚園も少子高齢化社会にある地域の方(老人会)を元気にするところだと思う。公立幼稚園は人数も減り、経営も厳しい状況、全国的にも年々園が減ってきている。しかし、幼児教育の充実に関しては一生懸命考え取り組んでいる。存続できればと願っている。

[委員] 昨年まで牛深幼稚園の園長をやっていたが、牛深の状況を説明したい。

牛深小校区内に幼稚園2園、保育園6園ある。旧牛深市では公立幼稚園は4園あったが(統合により)1園になった。旧牛深市内の幼稚園で一番多い時は5歳児だけで200人いたが、本年度は10名、ゆくゆくはもっと減少すると思う。私立幼稚園、保育園との競争であり公立を選択する保護者が少なくなっている。本渡も同じ状況だろう。説得して(幼稚園に)来て貰うのは非常に難しいと思っている。このため、検討してほしいとのことでこの審議会にかけられたのではと思う。

[議長] 園長先生の気持ちとしては、3人4人しかいないなら幼児教育が成り立たないとのことであろう。一定の規模は必要だとの考えのようだ。

[事務局] 市立幼稚園は牛深のほかにも本渡に4園ある。本渡については、3園は定員を満たす

くらしい人数がいる。しかし、うち1園は現在8人であり6人が卒園する。21年度の希望が何人いるか気を揉んでいる。園においても啓発に努めている。園もある程度人数が揃わないといい教育ができない、このようなことから廃止・統合を含めて検討してほしい。2・3人の園児がいても先生が2人、事務職が1人要る。このようなことから幼稚園のあり方についても諮問したところ。

[議長] 幼稚園については小中学校の適正化とは違う。小中学校の適正化とは違う議論と適正な数を決めなければやりにくいだろう。

[委員] 天草市の行政改革審議会で保育園と幼稚園については何らかの答申が出ているのではないのか。

[事務局] 幼稚園は、この審議会で揉んで(行政改革に)持っていくこととなっている。保育園はアウトソーシングを含めて検討されると思う。幼稚園は直営とするが幼稚園の定員の動向にたいして統廃合するのか、ある程度この審議会の検討に委ねられている。

[議長] 幼保一元化は考えてないのか。そうであるならばある程度の人員は確保できるのでは。

[委員] 幼稚園の保護者に話を聞くと、朝行って2時に迎えに行く。預ける側からすると、今はある程度の仕事をもつ人もいるが、仕事にも出られないということもある。県外の私立の幼稚園には延長もあるとの話は聞いたことがある。幼稚園の統廃合の前に、予算の都合もあろうが受入の時間帯等を考えることも必要、こういったことも出していくと幼稚園の存続にも関わってくるのではと思う。

[議長] 幼稚園はそういった機能を持っていないから保育園と同じニーズになってくる。だから幼稚園に保育園と同じ機能を持たせようとの議論である。

幼稚園のあり方は、保育園との関わりもあるが、あり方そのものは考えていく必要がある、幼稚園が積極的に位置づけられるように。ここでは、幼稚園が1桁の人数のところをどうするのか、もし、幼稚園が6時まで預かってもらうなら増えるのではとの意見はあるかも知れない。そういう役割を幼稚園が持ってこなかった。

7番の幼稚園についてもどこどこと統合してほしいということを期待していたのか。小学校の適正化(基準に)に当てはまる部分がある、幼稚園の特殊性を考慮して進めていくというような表現でいいのか、それなら簡単だ。幼稚園の適正化人数とか、小学校の基準の対比とかであれば2～3回会議を開かねばならない。

幼稚園も教育であるから、ある一定の規模で、先生が確保され、設備があつてということを経営的な考え方に準じて考えていくということであれば、みなさんその程度でいいのではとなる。

[委員] ある程度の適正な人数をここで議論し出れば、それ以下なら統廃合を検討するというくらいの表現でいいのでは。幼稚園と保育園の違いは保育時間であり、保育園は4時までという違いがある。

[議長] 一方は2時ころ、片一方は4時ころ帰るし、保育園と幼稚園はどこが違うのか。学校教

育法と児童福祉法の違いということになるがその通りである。

[委員] あんまりかわらないのでは。文部科学省と厚生省の違いか。

[議長] そうだ。現実には似たような機能を持っている。

[委員] 上の娘は2時に幼稚園に迎えにいき、弟は4時に保育園に迎えに行く場合もある。そういう母親もたくさんいる。

[委員] 牛深幼稚園は預かり保育とし6時までやっているが、それでも減少傾向にある。

[議長] 幼稚園は直営でやると決めているのか。

[事務局] 私立の幼稚園もあるが、民間委託しても経営がなっていないのではと思う。先ほど意見があったが、最終的には何人くらいになったら統廃合を考えるとということになるのかと思っている。

[議長] だいたい幼稚園は何人くらいがいいのか。

[事務局] だいたい30人くらい。4歳児・5歳児で併せて何人ということになれば。

[議長] 同じ年代のクラスが30人か。2つ併せてという議論はないのか。30人を割っているのはどれくらいか。

[事務局] 大体20人程度が多い。本渡南が3クラス、本渡北が4クラス、亀場3クラス、牛深1クラス。4歳児で南25人 北37人、瀬戸2人、亀場24人。20人程度いるといい。

[議長] 2名とか4名とかの園もあるのか。どうみても議論の余地がないようだ。どこを適正規模にするのかという議論ではない。極端な人員になれば統合を検討することになるだろう。20人でいいのか、30人なのかは議論がいるだろう。

[委員] 幼稚園や保育園に行っている子どもは多い。

[事務局] 4歳児・5歳児はどこかの保育園か幼稚園に入っている。牛深幼稚園は10人であるが、他の子どもどこかに行っている。保育園にいくとそのまま5歳児も保育園に行く。本渡の場合は、小学校の1年前に幼稚園という傾向がまだ残っている。3園については、横這いであるが、この園は極端に少なくなった。(その園の)保護者の方にも、この件について話をする必要があると思っている。

[議長] 天草市の基準があるので、これより極端に少ない園については検討する必要がある。保育園は母親が働きにできれば増える可能性はあるが、幼稚園は子どもの絶対数が減少傾向にあり難しい面がある。あまり少ないところはどれくらいかは別として(統合を)考える必要がある、これくらいの表現でいいのか。

[事務局] 具体的な数字を今度出していただけばと思う。

[議長] 7番はそういうふうなことで進めたい。8番目「適正化を進めるにあたっては、保護者や地域の理解と協力をもとに進める。」この問題は先ほどから意見が出ているので、小さくても残した方がいいとの意見もあるから多くの方の意見を聞いて進めたい。9番目に「残された校舎、跡地や残された住民」について触れたいと思う。文章はもっとしやれた感じを考えたい。

[委員] 牛深においては廃校の後の小中学校は利用されている、みなさんに紹介してほしい。

[事務局] 手元に資料はないが、牛深の統合の資料3ページを見ていただきたい。学校統合し

た中で、茂串小はいきいきふれあい館とし宿泊所に、池田小もふれあい館である。内の原小学校は、地域の老人福祉施設に貸して、そこがデイサービスを行っている。山の浦小はそのままでと思う、浅海小もそのまま。魚浦中はアーカイブス、書類保管として、天附中は昨年NPO法人に貸しデイサービスを行っている。深海中は耐震化工事を行い、深海小学校として活用している。体育館とグラウンドは基本的に社会体育施設として地域で利用するようにしている。また、体育館とグラウンドは、避難施設にもなっている。

[委員] 廃校施設は使われていること、何らかの形で利用できるように早めに牛深の例を出して、使える状況を作ることが必要である。利用できれば人口も増える、老人の施設にもなる。

[委員] 中学校に勤務しているが、複式学級の解消ということで議論が進んでいるが、中学校は解決しない。平成26年度でも14人の3クラス、103人も3クラスで複式は出ない。中学校は人間関係、対外的な社会性を学ぶことが必要であり1学年3クラス以上が望ましい。あまりにも少ないと免許外教員が増える。この際に、中学校についてもできるなら、通学距離も中学生なら少し遠くなくても構わないので、このような基準で検討してもらおうと有り難い。

[議長] 中学校の適正規模は30～40人の2クラスと思っていたがそうでないところもあるのか。

[委員] 天草市は1校を除けば小さい学校だ。

[議長] そうなら旧市町を越えて一緒にならざるを得ないのか。

[委員] そうなる。旧市町で2つあるところもある。

[議長] 中学校も考える必要がある。ご意見として賜りたい。

[委員] 適正化というか統合するとどのようなメリットがあるのかについては、保護者や地域の人の教育上の効果を高めるものと思う。学校教育は地域や保護者の支援がなければ成り立たない。統合により地域や学校が高まると思う。地域や保護者からの学校への協力支援により、効果もずいぶん上がっていたのでは。このごろはそれが弱くなっていると感じる。

ある程度の規模までもっていき、保護者や地域の学校への支援をもらい教育効果を高める。このため、適正化するのだというメリット面も文章にいれたら、住民の理解が得られるのではと思う。

[議長] 一番目にそれを入れたい。次回は、出された意見を整理し、適正化の必要性和新たな天草の教育にむけて何かすることがないかを検討したい、これが2番目。適正化の考え方を3番目とする。

2番目の統合の機会にこういうことをやろうということを次回に考えてほしい。例えば、英語教育、キリシタン文化の研究をやるとか、積極的なことを出してほしい。予算のことを考えるとさみしくなるのでふんだんにあると思って。

それぞれの項目で、例えばスクールバスは何キロとかあるが、いちいち議論しても仕方ないのでこちらに任せていただいて意見を求めたい。

具体的に文章ができるのは、年が明けてからでしょうから、少なくとも次回は基本的な考え方と積極的な天草の教育のため何をするのか、跡地の利用について議論したい。

[委員] 小学校は、学年の人数が大事。複式学級の解消はもちろんであるが、学級の運営や学校の経営面などから1学年に何人いるのが一番いいのか。具体的には30人とか50人とかいうことで入れたら。

[議長] 1クラスは40人であるが天草では40人とする満たせない。30人とする2クラスの60人で適正と言えは適正。

[委員] 国の基準の40人は厳しい。

[議長] はっきり言って20人。40人は厳しい。目指すのは1クラス30人くらいですか。小学校1・2年は基準は違うが。

今回は複式学級をなくそうということ。小学校でも適正規模でないのは分かるはず、30人と決めたらもっと統合しなければならない。そこまでやらなくてはと思うだろうが、今回は複式学級の解消だけはやろうとしている。そうしても10年後、20年後にも適正化をやらなければならないのは事実である。

[委員] 天草市は広いので、ブロックに区切って検討する案も以前出ていた、学校の視察の話も出ていた。また、審議会の傍聴者がいない。学校関係にPRしてみたらどうか。

[議長] この会議は公開か。(「はい」との声)情報公開条例はあるのか。

[委員] でも多分知らない。

[委員] 前回も出たが枠組みであるが、どことどこというふうに出すのか。

[議長] 次にはどことどこということを出して、具体的な考え方を決めてから、どことどこということを出そうということ。そうしないと具体的なことが進まないのではっきり名前を出すことにしようということだった。

[委員] 私は反対。私たち(委員)は、学校関係者だけではない。地域から出ているが、教育委員会から頼まれて出ている。1つの町から代表として出てきた。どことどこ統合してどこの学校になるということは、反対意見もある。(「市政だより」)に名前がでているので、どうしてそう決めたのかと言われると思う。基本的なことはここで出して、予算面等もあろうから、教育委員会が地域住民と話しながら組み合わせは決めてほしいと思う。

[議長] 前回も話があった。ほかの答申も見て、みなさんで協議してもらいたい。

われわれは多くの意見として考えを提示する。委員の皆さんに責任はないので安心してほしい。パブリックコメントはしなければならない。それで意見を聞くこととなる。最初の時に学校を視察するかを聞いた時にそのような雰囲気ではなかった。統合すれば、対象となった学校が話あった方がいいでしょう。うちの学校は複式だからなくなると議論した方がいいでしょう。基本方針について住民と話しても意見は出ないだろう。

[委員] 言われることは、区長会長会として出てきているから、問題と考えるおられるようだ。私は地区振興会の会長。小学校を潰して、地域はさびしくなるといわれる。それに反撃する智慧はないが、全ての地域をみてメリットとデメリットを考え、これを判断して決めたい。できれば逃げたい、開き直りだ。子どもの教育をどうするのかの1点だけを追求したい。

[委員] 教育委員会の方で決めてもらいたい。

[事務局] 基本的な考え方は議論のなかで出てきたと思う。複式学級の解消については理解が得られたのではと思う。旧市町で考えると、いくつも学校があるわけではないので、自ずと組み合わせもできると思う。たたき台として出して貰えばパブリックコメント等で地域に説明することとなる。意見を聞くが、最終的には教育委員会が計画をつくることになる。案というのをだしていただきたい。何も無いのに地域から意見をきいてから始めるといつまでもかかる。大変と思うが、この審議会で(組み合わせも)審議してほしいと思っている。

[委員] 審議会で決められたことが印籠を渡すような決定であるのか、(委員は)たたき台を出すだけでその後教育委員会が検討し決めるのか。

[事務局] 答申をもらい教育委員の意見も聞き、地域にその案を示して意見を聞くこととなる。最終的な決定は、21年度に学校規模適正化推進計画をつくることになっている。

[議長] 審議会の性格は、意見を聞き1つにまとめ提出するが、その実施は教育委員会の責任でみなさんの責任ではない。答申案は尊重はして貰えるが拘束力はない。それは市の判断である。一部だけ実現し一部はできないということもありうる。

今回の答申がどういったものになるかは別として、複式学級の解消は、多くの方は賛同いただけたと思う。きょうはこれで終わりたい。次回の会議日程は。

[事務局] 前回の会議では12月5日と一応決めていたが、12月9日(火)の天草市民センター展示ホールで行いたい。時間は午後2時としたい。

[議長] 1月・2月にあと2回くらい必要か。地域の特性を生かすようなことを考えてきてほしい。

[事務局] 長時間にわたり審議いただきありがとうございました。基本的な考え方を出示してもらい、次回に整理することとなる。統合でメリットもあるのでということを検討いただければと思う。ありがとうございました。